



環境報告書2007

国立大学法人 電気通信大学

目 次

I	環境配慮の方針	1p
II	大学概要	2p
III	環境配慮の推進体制	2p
IV	環境関連法令等の遵守状況	3p
V	環境配慮の取組状況	4p
1	地球温暖化対策	4p
1-1	取組	
1-2	取組結果	
2	省資源・廃棄物の抑制	6p
3	環境の維持及び化学物質等の管理	7p
4	環境に係る教育研究	8p
5	環境に関する図書の数	9p
6	構内の緑地保全	10p
7	その他の環境保全活動	10p
VI	環境配慮の目標及び計画	11p
VII	環境報告書ガイドライン対照表	12p
VIII	環境報告書の作成にあたって	13p

I 環境配慮の方針

学長の緒言

近年、事業活動と環境とのかかわりの増大を背景に、事業者の環境保全活動に対する国民の期待が高まっています。このような背景の下、平成16年に環境配慮促進法が施行され、地域とのコミュニケーションの手段である環境報告書の普及促進を図り、環境配慮の取り組みを推進していくこととされました。

本学でも、下記の環境方針の下、環境報告書を作成し、環境負荷の低減などの取り組みについて公表しています。「環境報告書2007」は、より分かりやすくとのコンセプトでまとめましたので、是非ご活用いただきたいと思っております。

環境保全に関しましては、法律による規制があり、本学でも、コンプライアンス規程の制定などにより、その遵守について職員の意識改革を図りつつ、厳正に取り組んでいます。また、これにとどまらない自主的な取り組みも実施しています。今後も引き続き、環境配慮に創意工夫を活かして取り組む所存です。地域の方々のご理解とご支援をお願い申し上げます。



2007年9月25日
国立大学法人電気通信大学
学長 益田 隆司

国立大学法人電気通信大学の環境方針

わたしたち人類は文明の発展とともに、地球の温暖化、化学物質による汚染など、さまざまな環境問題に直面しています。

電気通信大学は、人類にとって地球環境の保全が最も重要な課題の一つであるとの認識に立ち、自然と人間の共存、環境との調和に寄与し、教育・研究活動による環境負荷の低減に努めます。また、武蔵野の面影が残る緑豊かなキャンパスを維持し、地域に貢献し開かれた大学を目指します。

このため、次の事項を推進していきます。

1. 教育・研究活動から生じる環境負荷の低減と、環境の維持・改善
2. 省エネルギー・省資源、資源リサイクルへの取り組みの推進、グリーン購入の徹底
3. 本学に適用される環境関連法規、条例等の遵守
4. 武蔵野の地にふさわしい緑豊かなキャンパスの保全、環境の維持・改善活動のための地域社会や自治体との連携・協力
5. この環境方針を達成するために目標の設定と、教職員、学生及び学内関連事業者の協力による実現

この環境方針は文書化し、本学の教職員、学生、大学生協など常駐する学内関連事業者に周知するとともに、文書やインターネットによるホームページを通して、本学関係者以外へも広く公表します。

II 大学概要

電気通信大学は、「情報、通信、および、関連する諸領域の科学技術」に関する教育研究を行い、人類の未来を担う人材の育成と学術の研究を通じて、文化の発展に貢献することを目的としています。

現在、電気通信学部（7学科）、大学院電気通信学研究科（7専攻）、大学院情報システム学研究科（3専攻）や教育及び研究に関するセンターなどで構成されています。

(1) 大学名称

■国立大学法人 電気通信大学

(2) 所在地

■〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

(3) 教職員・学生数（2006年5月1日現在）

■教職員:515名 学生:5,599名 合計:6,114名

(4) 施設面積等

■土地:115,433㎡・建物面積:137,676㎡

(5) 教育研究組織（2006年度）

■電気通信学部(7学科)

情報通信工学科,情報工学科,電子工学科,量子・物質工学科,知能機械工学科,システム工学科,人間コミュニケーション学科

■大学院電気通信学研究科(7専攻)

情報通信工学専攻,情報工学専攻,電子工学専攻,量子・物質工学専攻,知能機械工学専攻,システム工学専攻,人間コミュニケーション学専攻

■大学院情報システム学研究科(3専攻)

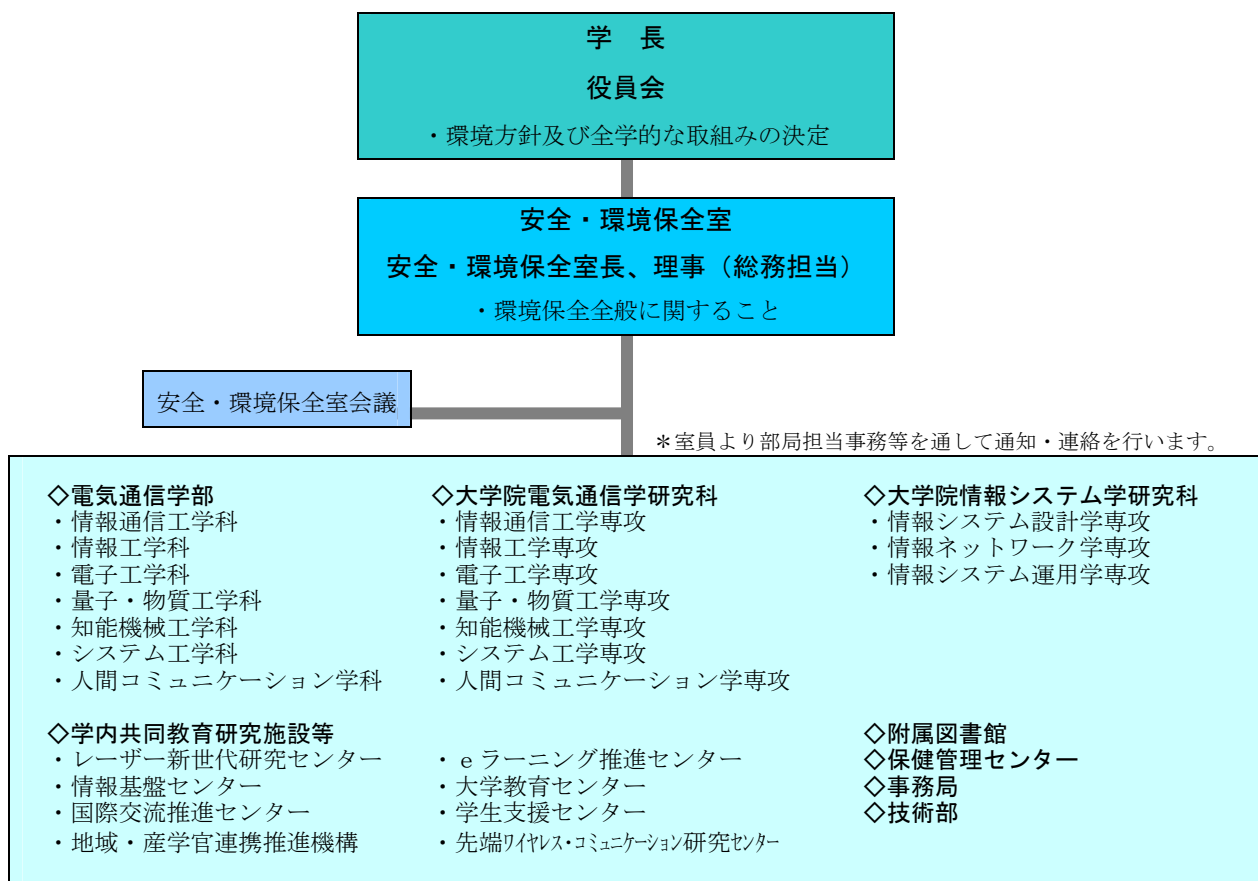
情報システム設計学専攻、情報ネットワーク学専攻、情報システム運用学専攻

■学内共同教育研究施設等



III 環境配慮の推進体制

環境保全活動を計画・実施し、環境配慮の対策を行うための推進体制は次のとおりです。



IV 環境関連法令等の遵守状況

次表の環境関連の法令、条例が本学にも適用されており、これらを遵守しています。

環境関連法令等(略称)	規制及び報告書等の作成義務等
環境配慮促進法	環境報告書の公表
省エネルギー法	年 3,000kl 以上の熱と電気を合算した使用量:第一種エネルギー管理指定工場(熱・電気)に係るエネルギー管理員や熱・電気のエネルギー消費等の定期報告・中長期計画書の提出
環境物品等の調達推進法	グリーン購入調達方針と実績の報告公表
廃棄物処理法	適正な収集処理業者への委託
	産業廃棄物のマニフェスト管理
	特別管理産業廃棄物の特管責任者の設置とマニフェスト管理
労働安全衛生法	安全衛生責任者、産業医等の選任、作業環境、有害物等各種検査・報告・届出等、健康管理、安全衛生委員会の設置等
建築基準法	特殊建築物等(建築物、建築設備、昇降機)定期調査・報告
消防法	一定規模以上の危険物使用保管の届出
放射線障害防止法	放射線管理状況の国への報告と規程遵守
高圧ガス保安法	高圧ガス(LPG、液化窒素:7,063kg)の貯留の管理基準遵守
大気汚染防止法	ボイラー・吸収式冷温水発生機のばい煙排出量の測定と報告
PCB 廃棄物特別処置法	PCB 含有の高圧コンデンサ、高圧変圧器、照明用安定器の適正保管
フロン回収破壊法	フロン使用製品(業務用空調機や自動車エアコン)の回収業者への引渡し
建設リサイクル法	一定規模以上の工事のリサイクル計画書の提出
自動車リサイクル法	自動車車検時の廃棄料支払い
家電リサイクル法	指定家電の廃棄処分時の廃棄料支払い
騒音規制法・振動規制法	建設工事等における騒音及び振動の規制値の遵守
都環境確保条例	地球温暖化対策計画書と温室効果ガス排出状況の報告
	ディーゼル車の排出ガス規制の遵守
	駐車場(20 台以上)でのアイドリングストップ表示
	地下水揚水施設の届出と揚水量の報告
	化学物質の適正管理
	石綿含有建築物解体等工事に係る届出等
都廃棄物条例	廃棄物減量計画書の提出
	事業系一般廃棄物の処理

V 環境配慮の取組状況

2006年度の環境配慮の目標及び計画に対する取組の実施状況は以下のとおりです。

地球温暖化対策の取組や教職員・学生の環境に対する意識の向上により徐々に効果が現れています。

1 地球温暖化対策

1-1 取組

目 標：温室効果ガスの総排出量を 2009 年度に 7,088t-CO₂/年を目標として温室効果ガスの削減を図っていきます。

① 空調設備の取組

- ・7月末の学生の前期試験期間を除く、空調負荷の少ない時期は、空調用の冷凍機2台のうち1台を運転し、エネルギー使用量の削減を図りました。
- ・暖房用ボイラー、吸収式冷温水発生器の空気比を基準値内に納まるように調整しました。
- ・冷房負荷が低い時は、外気温度に合わせて冷温水の温度管理を実施しました。
- ・外気導入量が過大にならないように、二酸化炭素濃度の基準値に基づき最適となるように外気導入量の調整を行いました。
- ・蒸気ヘッダーバルブ18カ所の断熱を行い、不要な熱放出を防ぎ、熱源機器の負荷を削減しました。
- ・排風機等に使用しているファンベルトを省エネ型へ更新し伝達時のエネルギー損失を削減しました。

② 電気設備の取組

- ・高効率の変圧器への更新、電気需要に合った台数に変圧器の統合を進めました。
- ・外灯について、深夜に50%点灯とする調光制御方式の導入について対象となる外灯53台のうち21台を実施しました。
- ・白熱電球(40~100W)431個すべてを高効率電球形蛍光灯へ交換しました。
- ・改修工事にあたり照明器具を省エネ機器に更新しました。

③ 自然エネルギー発電システム

講義棟の改修工事に伴って屋上に太陽光と風力を併用した「自然エネルギー発電システム」を設置しました。1階エレベータホールに、発電システムの説明と、現在と設置してからの発電電力量が一目でわかる表示板を設置しました。

④ 室内基準温度の夏季28℃、冬季20℃設定、昼休み1時間消灯をはじめとした不要照明の消灯、コンセントを抜いて待機電力の削減の徹底のため省エネキャンペーンポスターを作成し呼びかけました。

⑤ ホームページ上に電気、ガス、下水道使用量等を公表しました。

⑥ 8月の夏休みには、エレベータの2台運転を1台運転にしました。

⑦ 夏季の一斉休業を試行的に一部学科、事務局において実施しました。



太陽光・風力発電設備



1階エレベータホールの表示板

発電能力 太陽光発電 3.2kw X 2面
風力発電 0.5kw X 2機



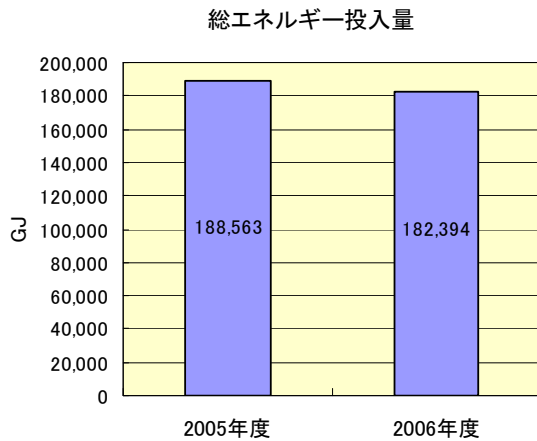
2006 省エネキャンペーンポスター

1-2 取組結果

地球温暖化対策の取組により、各エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量を削減することができました。

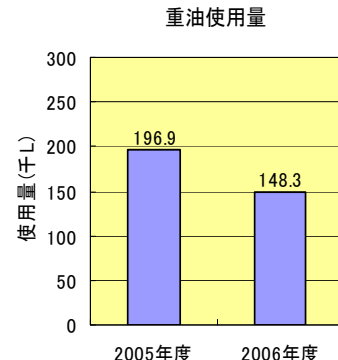
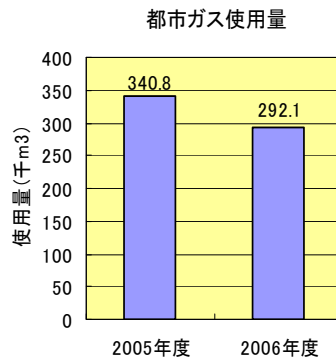
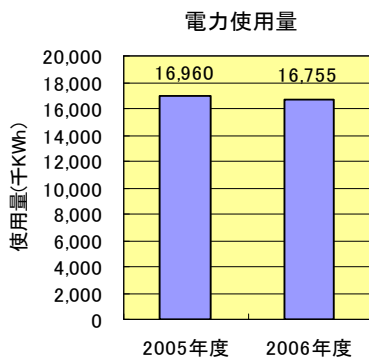
● 総エネルギー投入量

総エネルギー投入量は、購入した電力、都市ガス、重油から熱換算係数を用いて算出しています。2006年度は、前年度より6,169GJ(3.3%)減少しています。



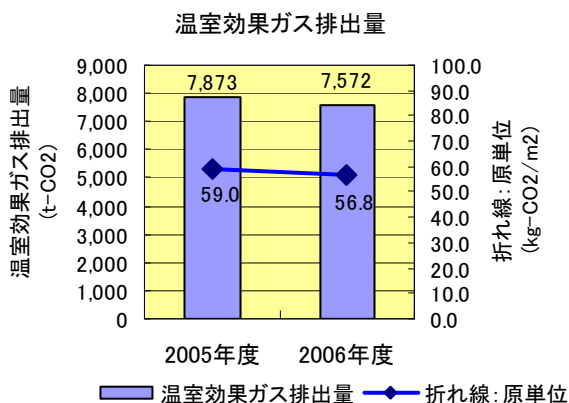
※単位(GJ)について
 熱量換算係数は以下のとおり
 電気 昼間 9.97GJ/千 kWh
 夜間 9.28GJ/千 kWh
 都市ガス 44.9GJ/千 m³
 重油 39.1GJ/kl
 ※熱量換算係数は、東京都の地球温暖化対策の熱量換算係数による

2006年度の各エネルギー使用量は前年度より、電力 205 千 kWh(1.2%)、都市ガス 48.7 千 m³(14.3%)、重油 48.6 千 L(24.7%)減少しています。



● 温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量の削減目標は東京都地球温暖化対策計画書に基づき削減量を設定しています。2006年度は、前年度より301トン(3.8%)減少しています。折れ線グラフは建物延べ床面積当たりの温室効果ガス量(原単位)を表しています。



※単位(t-CO₂)について
 排出係数(t/GJ)は以下のとおり
 電気 昼間 0.403 t/GJ
 夜間 0.354 t/GJ
 都市ガス 0.0513t/GJ
 重油 0.0693t/GJ

※温室効果ガス排出量換算は、東京都の地球温暖化対策の温室効果ガス排出係数による。

2 省資源、廃棄物の抑制

目標1：水使用量の削減に努める。

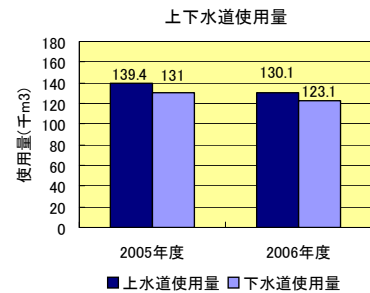
① 上水道

上水は地下水と水道水を利用しており、地下水が上水全体の99%を占めています。

節水対策として講義棟の改修工事で手洗い器の自動水栓への交換などを進め、使用量は減少しています。

② 下水道

下水道への排水量を削減し、雨水を地下に還元するため講義棟の改修工事では、浸透枳の設置をしました。

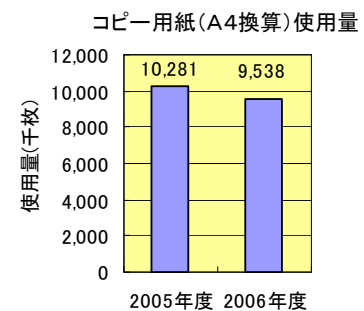


目標2：e-キャンパスモデル校を目指して環境整備を推進し、コピー紙削減を図る。

① 会議資料閲覧システムやプロジェクターの使用により紙資料の削減を図りました。

② ペーパーレス化のために、これまでの実績を整理するとともに、今後の計画を取りまとめ、経費節減や事務の簡素化方策とともに学内に公表しました。

③ コピー紙は、両面コピーの推奨、コピー裏面の有効活用により使用量の削減に努め、減少しています。



目標3：省資源で廃棄物量を抑制し、リサイクルに努める。

① 100%グリーン製品の調達

事務用品や事務機器、家電製品などは100%グリーン製品の調達を目標としていますが、研究・実験のために機能上の必要性から一部特定調達物品以外の物品を購入しました。

グリーン購入・調達状況

分野	摘要	全調達量	特定調達品目 調達量	特定調達品目 調達率
紙類	コピー用紙等	59,300 kg	57,422 kg	97%
文具類		128,604 個	127,694 個	99%
機器類	事務機器等	1,578 台	1,551 台	98%
OA機器類	コピー機等(リース機含む)	3,780 台	3,780 台	100%
家電製品	電気冷蔵庫等	41 台	41 台	100%
エアコンディショナー等		34 台	34 台	100%
温水器等	電気給湯器等	45 台	45 台	100%
照明	蛍光灯等	1,886 本	1,886 本	100%
インテリア・寝装寝具	カーテン等	277 枚	277 枚	100%
作業手袋		700 組	700 組	100%
その他繊維製品	ブルーシート等	18 枚	18 枚	100%
役務	印刷	86 件	86 件	100%

② 産業廃棄物の一元管理

安全・環境保全室が総括的な廃棄物の一元管理を行い、適正な分別や保管のルールを定めています。

- ③ 廃棄物抑制、リサイクル
 - ・廃棄物の適正な分別や保管について、分別ボックスを設置し、教職員・学生に周知徹底をしています。これまでは可燃ゴミと同様に焼却処分していた多種の紙類のミックスペーパーも分別回収の対象とし、新たにミックスペーパー用のゴミ箱を設けました。
 - ・食堂、販売店等の構内営業事業者と共同で廃棄物の分別、リサイクルなどの取組を行っています。
- ④ 施設整備における省資源、リサイクル

建物設備の工事については、強度、耐久性、機能、コスト等に留意しながら、再生資材、省エネタイプの空調機、排ガス対策・低騒音型建設機械の採用、建設副産物のリサイクルなどを積極的に採用しました。
- ⑤ 教育研究用ヘリウムの再利用

機器分析センター低温室に供給している液体ヘリウムは、教育研究に使用した後ヘリウムガスとして回収され、液体ヘリウムに再液化し、再利用しています。

3 環境の維持及び化学物質等の管理

目 標：大学の環境の維持向上と教職員・学生の健康と安全を図る。

- ① 化学物質・薬品のデータベース管理を行うため、必要な機材を調達しシステムの稼働と一部試験的に導入を開始しました。
- ② 学内におけるアスベスト使用状況調査を行い、その結果を公表するとともに、アスベスト含有吹付け材を使用している部分について 2005 年度に引き続き計画的に除去工事を実施しました。



アスベスト除去・環境測定

講義棟の耐震補強を含む全面改修及び講義室の空調設備等の改修をしました。

- ③ 建築基準法による学生寮、国際交流会館等の点検、環境測定を行い不具合箇所については改善措置を行いました。
- ④ 産業医・衛生管理者による巡視と自主的な安全・環境パトロールを行い不具合箇所、危険箇所等の改善を進めました。
- ⑤ PCBの保管についてはPCB特別措置法および東京都の指導要綱に基づき報告し、構内指定場所に厳重に管理保管しています。



PCBの保管状況

今後、国の「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画」に基づき、ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理施設において処分する予定です。

- ⑥ 燃焼設備による硫黄酸化物(SOx)の排出量(大気汚染に係る負荷量)は年間 56.9m³で、低減のために適正な空気比管理や台数制御を行っています。
- ⑦ 放射線取扱業務に従事する教職員・学生を対象に、安全講習会を実施し、学生・教職員等190名が受講しました。
- ⑧ 高圧ガス(圧縮ガス、液体ヘリウムおよび液体窒素を含む)の利用者に対し、関連法規、規程や取扱いについての講習と実習、貯蔵所の見学を行い、安全な利用と運用方法を周知し安全意識の向上させるための保安教育を実施しました。



高圧ガス貯蔵施設

4 環境に係る教育研究

本学では、環境に関連した授業を開講するとともに、環境に関する教育研究も行っています。

目 標：エネルギー問題、科学技術と人間・社会・自然・環境等に関する融合研究に重点を置く。

(1) 環境分野の授業科目

授業科目	授業科目の内容
地 理 学 B	◆都市空間と課題、都市活動に伴う負の環境問題と対応等
宇 宙 ・ 地 球 科 学	◆科学技術を使った人間の活動が社会や自然に及ぼす影響について宇宙的視野で考え地球を大切にす
環 境 論	◆環境問題の中から主として生態系に関わる諸問題の現状と意味を理解する ◆環境問題の実際を理解し今日の科学技術の果たすべき役割を自覚する
環 境 工 学	◆環境関連法規、地球環境における科学的問題点、エネルギー変換など

(2) 環境に関する研究テーマ

学科等	研究開発テーマ
情 報 通 信 工 学 科	◆超高層大気に地球温暖化の影響は及んでいるかの研究
電 子 工 学 科	◆希土類イオンを利用した太陽電池の高効率化
量 子 ・ 物 質 工 学 科	◆音響化学による超高温、超高压の極限環境の研究
知 能 機 械 工 学 科	◆環境流体中のエネルギー・物質輸送現象の高精度予測 ◆都市域における汚染物質拡散挙動シミュレーション
シ ス テ ム 工 学 科	◆製品 LCA (ライフ・サイクル・アセスメント) のコンピュータ支援に関する研究/ 統合型製品 LCA による事業創造プロセスのモデル化と管理方法
人間コミュニケーション学科	◆酸化チタン微粒子を用いた環境浄化
研 究 ス テ ー シ ョ ン (※次頁で紹介しています。)	◆環境調和型ライフサイクル研究ステーション e3-プロダクトライフサイクルマネジメントシステムに関する研究



音響化学による超高温、超高压
の極限の研究



情報機器を使用した環境教育

● 研究紹介「環境調和型ライフサイクル研究ステーション」

本研究ステーションでは、製品の製造、使用、リサイクルといったライフサイクル全体の環境負荷削減を目指した製品マネジメントシステムについて研究を行っています。

この研究の特徴は、環境志向(*ecology-oriented*)の下で、電子情報通信技術 (*electronic information communication technology*) をベースに、製品使用者(*end-user*)も製品ライフサイクルで重要な役割を担うと認識し、製品使用履歴情報を活用した *e³*-プロダクトライフサイクルマネジメントシステムを分析することにあります。

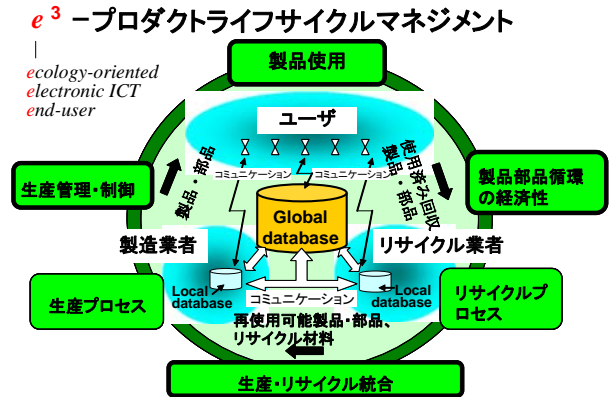
製品環境負荷削減を実現するためのグリーン活動として、社会では様々な取組がなされています。しかし、多くの場合、個々の企業や製品ユーザが単独でグリーン活動を推進しています。その過程で、必要な「製品情報」が得られないために、環境負荷低減に向けた適切な判断ができず、余分の労力や無駄が発生し、十分な環境負荷削減が実現できないという状況があります。

例えば、リサイクル業者は製品情報が不明なために効率的なリサイクルが実現できない、製品ユーザは環境にやさしい製品使用法や故障時の取扱い方がわからない、製造業者は製品ユーザの使用状況がつかめず新製品開発へのフィードバックが不十分である、などです。そこで重要なことは、情報の共有化を実現するシステムを作り、製造業者のみならず、製品ユーザ、リサイクル業者を初めとする製品関係者が必要な情報を提供しあい、コミュニケーションを取ることにあります。

本研究ステーションの取組は、そのような「情報共有」において中核となる製品情報データベースの枠組みを明らかにし、その活用法を検討することです。

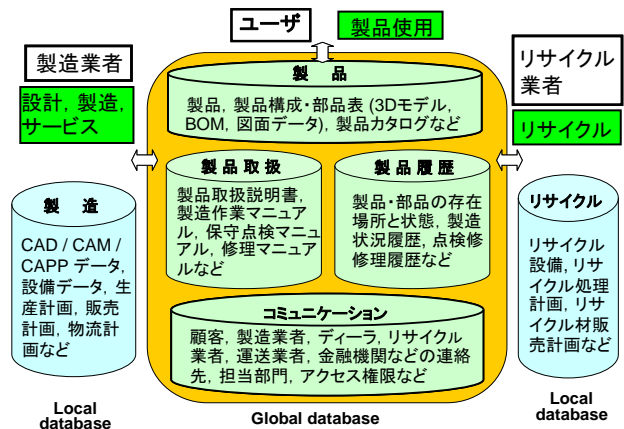
情報共有を実現するときに注意すべきことは、各企業や個人にとっての機密事項やプライバシーを保護することです。つまり、共有の対象とする情報に関わるグローバルなデータベースと、各企業が個別に持つべき情報に関わるローカルデータベースとに切り分けて、情報の流れを管理することです。

本研究ステーションでは、以上のような観点から、製品情報の流れを分析し、製造業者、製品ユーザ、リサイクル業者がいかにかにして製品情報を共有して環境負荷削減に結びつけるかという点について研究を行っています。



©電気通信大学環境調和型ライフサイクル研究ステーション(2007)

図1 *e³*-プロダクトライフサイクルマネジメントシステムの概要



©電気通信大学環境調和型ライフサイクル研究ステーション(2007)

図2 グローバルデータベースとローカルデータベース

5 環境に関する図書の蔵書数

附属図書館では、政府機関発行の環境白書を始めとする環境関連図書を約 1,000 冊所蔵しています。

これらは、学外の方々にも所定の手続きによりご利用いただけます。図書館の利用方法、資料の検索は下記のHPからできます。

<http://www.lib.uec.ac.jp/>



6 構内の緑地保全

本学は、武蔵野の面影が残るキャンパス内の緑地の樹木剪定や植樹等の植栽管理を行い、緑の保全に努めるとともに、良好な教育研究環境を維持しています。

今年も、調布市民ボランティアグループ「調布花・はな」のみなさんと教職員・学生が共同して構内の花壇に、春・秋の二回花植え作業をしました。また、構内の樹木の落ち葉を利用して腐葉土づくりも行っています。



ボランティアグループと教職員・学生による花植え作業と構内花壇



落ち葉による腐葉土づくり

7 その他の環境保全活動

(1) 地域・産学官連携推進機構（地域貢献部門）の取組

● 美化ボランティア

地域貢献部門の主催による美化ボランティア活動で大学周辺の美化に49名（学生34名、教職員15名）が参加しました。



ゴミの内容はタバコの吸い殻、タバコの空箱、お菓子の包み紙が目立ちました。

(2) 構内事業者における取組

● 電気通信大学生協同組合の取組

大学生協では平成16年7月にISO14001を認証取得し、食堂、売店、生協事務所で省エネ、節水、廃棄物の削減、グリーン購入の推進等の活動を実践しています。

- ・排水への油負荷軽減
食堂のドレッシングキャップを大量に出ないように改良し、下水道への油分の流出量を削減しています。
- ・食材廃棄量の削減
食堂食材の調達量を、過去の実績、天候、学事の状態に応じて細かな食材発注を行って廃棄量を削減しています。
- ・国内間伐材の割り箸利用
食堂の割り箸は国内の間伐材から作られたものを使用しています。国内間伐材の割り箸利用は日本の森林を守る間伐作業を促進するために重要な取組です。さらに、使用済みの割り箸は建材として再生する工場に全てリサイクルしています。



ドレッシングキャップの改良

●学校福祉協会の取組

レストランハルモニア・西食堂を営業する学校福祉協会では、環境活動として下記の取組を推進しています。

- ・ 不用な照明、外気温に合わせた空調温度のこまめな管理や衛生に配慮しつつ溜置き水を使うなど従業員に徹底して光熱水量の削減を図っています。
- ・ 低農薬米・野菜を使用して安全な食事を提供しています。また、健康のために繊維質やミネラルが豊富な六穀米を使用しています。
- ・ 森林保護と廃棄物の削減のために割り箸をやめ、塗り箸の使用を計画しています。
- ・ 加熱水蒸気によるスチームコンベクションオーブンの導入により油の使用量の削減と、油分の少ないヘルシーなメニューの提供を計画しています。



VI 環境配慮の目標及び計画

2007年度の環境配慮の目標及び計画は以下のとおりです。

○地球温暖化対策の取組

目 標:温室効果ガスの総排出量を2009年度に7,501t-CO₂/年(注)を目標として温室効果ガスの削減を図る。

計 画:設備面の対策として管理標準等による適正な運転管理、改修時等の省エネ機器への更新を行います。
運用面として省エネキャンペーンポスターやエネルギー使用量の公表による啓発を行います。

(注)温室効果ガス総排出量の目標については東京都地球温暖化対策計画に基づいて算出していますが、これまでの対策や取組みの見直し・検証を行い、数値目標の変更をしました。

○省資源、廃棄物の抑制

目 標1:水使用量の削減に努める。

目 標2:e-キャンパスモデル校を目指して環境整備を推進し、コピー紙削減を図る。

目 標3:省資源で廃棄物量を抑制し、リサイクルに努める。

計 画:改修時に節水機器への更新を行います。
会議等のペーパーレス化や両面コピー・コピー裏面の有効活用を推進します。
グリーン製品の調達に努めます。
省資源、廃棄物の抑制、リサイクルに努めます。

○環境の維持及び化学物質等の管理

目 標:大学の環境の維持向上と教職員・学生の健康と安全を図る。

計 画:環境関連法令等を遵守します。
安全・安心な教育研究環境を維持・管理します。

VII 環境報告書ガイドライン対照表

環境配慮促進法の要求事項（努力義務含む）、環境報告ガイドライン（2007年版環境省）の項目例と本環境報告書掲載項目との対照一覧を次表に示します。

環境報告ガイドライン記載項目と本報告書記載項目の対照表

環境報告ガイドライン記載項目		記載頁
基本的項目		
経営責任者の緒言		1p
報告にあたって基本的要件	対象組織・期間・分野	2,13p
	報告対象組織の範囲と環境負荷の補足状況	2p
事業の概況		2p
環境報告の概要	主要な指標等の一覧	4～8p
	環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	4～8p
マテリアルバランス	インプット、内部循環、アウトプット	4～7p
環境マネジメント指標		
環境マネジメントの状況	事業活動における環境配慮の方針	1p
	環境マネジメントシステムの状況	2p
環境に関する規制遵守の状況		3p
環境会計情報		5,6p
サプライチェーンマネジメント等の状況		11p
グリーン購入・調達状況		6p
環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況		8,9p
生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況		10p
環境コミュニケーションの状況		10,13p
環境に関する社会貢献活動の状況		10p
環境負荷低減に資する製品・サービスの状況		9p
オペレーション指標		
総エネルギー投入量及びその低減対策		4～7p
総物質投入量及びその低減対策		4～7p
水資源投入量及びその低減対策		6p
事業エリア内で循環的利用を行っている物質等		6,7p
温室効果ガスの排出量及びその低減対策		4, 5p
大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策		7p
化学物質の排出量、移動量及びその低減対策		7p
廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策		6p
総排水量等及びその低減対策		6p
社会パフォーマンス指標		
社会的取組の状況		10p

VIII 環境報告書の作成にあたって

● 参考としたガイドライン等

環境省「環境報告ガイドライン～持続可能な社会をめざして～（2007年版）」 2007年6月
環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」 2005年12月

● 対象年度

■2006年度（2006年4月1日～2007年3月31日）

● 対象組織範囲

■電気通信大学調布キャンパス

● 発行日

■2007年9月25日

（2005年度環境報告書発行日：2006年9月25日、次回発行予定：2008年9月）

● 環境報告書の問合せ窓口

本報告書内容についてのご意見、ご質問、資料請求については、次の部署にお問い合わせください。

■電気通信大学施設課

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

TEL：042-443-5052 FAX：042-443-5061

● 外部への情報公開事項

本報告書に関連した環境活動に関する情報は、次のHPで閲覧が可能です。ただし、時期によっては年度更新等により掲載されていない場合や、Webアドレスが変更になる場合があります。

公開している環境関連情報	Webアドレス
中期目標	http://www.office.uec.ac.jp/www/jouhoukoukai/jouhou/houteikoukai/index.html
平成18事業年度実績報告書	http://www.office.uec.ac.jp/www/jouhoukoukai/jouhou/houteikoukai/index.html
グリーン調達方針	http://zaimu.office.uec.ac.jp/keiyaku/green/index.html
地球温暖化対策計画書	http://www.office.uec.ac.jp/www/jouhoukoukai/jouhou/houteikoukai/index.html
産業廃棄物適正処理報告書	http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/sanpai/index.htm
事業概要	http://www.uec.ac.jp/about/index.html
研究者研究情報	http://kjk.office.uec.ac.jp/scripts/websearch/index.htm
電気通信大学生生活協同組合の環境活動	http://www.uec-coop.or.jp/other/kankyo.html